
SPIRAL

0.5

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SPIRAL

【Nコード】

N1069G

【作者名】

0.5

【あらすじ】

天才と呼ばれたアーチエリープレイヤー^{かみやかく}神箭学は中学生時代、競技中の事故によって右目を失明してしまい、突如、アーチエリー界から姿を消す。それから数年後、転校した高校で出会った少女にアーチエリー部に入部するように強要される。はじめは拒む神箭だったが、病気で亡くなった幼馴染との約束を胸に、インターハイ優勝を目指す。

プロローグ

プロローグ

静かな黄昏時の校舎。そのコンクリートで固められた肌は夕日で赤く染まっていた。

ほとんどの生徒が下校したにもかかわらず、三階の一角にある教室で一人、帰り支度をしている女生徒がいた。

窓側の席で鞆に教科書を入れようと格闘している。腰までぶらさげた長髪は、力を入れるたびにかすかに揺れ、同時に夕日の光を力強く照り返していた。

わずかに開いた窓の隙間からそよ風が入る。

突然、少女が窓側に向かった。

何かが聞こえたのか、目をつむり、耳をすました。

バシュ トン

どこかから音が聞こえた。

少女はさつきもその音を聞いたのか、その音の正体を知っているのか、脳裏に浮かぶ何かを確かめるために再び耳をすます。

バシュ トン

また聞こえた。音の発信源は、校舎の下。そして、そこにあるのはアーチェリー部の練習場。

少女の足はごく自然に窓へと向かっていた。ゆっくりと練習場のぞき見た。

そこでは、一人の生徒が黙々と練習をしていた。

弦を引き絞る度に洋弓がきしむ。男子生徒の目は鋭く、的の中心を捉えている。一匹の獣のように真っ直ぐと。

矢が手から離れるとき、

カナカナカナカナカナ

蝸が鳴き始めた。その声が矢の音を小さくする。

カナカナカナカナカナカナカナカナカナカナ

一匹、二匹、数匹と蝸の数は増え、大合唱を始める。比例するよう
に矢の音は聞こえなくなった。

女生徒にはもう完全に矢の音も弓が軋む音も聞こえない。無音の
世界にいる男子生徒を見つめる。

男子生徒は蝸の歌が聞こえないかのように、ただ矢先の指す的を
見つめる。

夕日が沈み、金色の光が輝きだす。

カナカナカナカナカナカナカナカナカナカナ

歌が途絶える。

矢の音も途絶えた。

男子生徒がふと、闇に覆われた空を仰ぐ。視界の端に女生徒の顔
が入る。

視線がそちらに移動した。

二人の視線が重なる。

互いに目をそらさず、無言のまま見つめあう。

意思の疎通をしているのか、わからない。

男と女。

下にいる者と上にいる者。

動く者と不動の者。

外にいる者と中にいる者。

何もかもがすれ違う二人がその時だけ重なった。

金色の光に雲がかかり、その場を闇に包みこむ。

両者の姿が見えなくなる。

完全な闇。

次に、金色の光が射すとき、そこに二人の姿はなかった。

プロローグ 完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1069g/>

SPIRAL

2010年10月28日03時51分発行